



毎月23日は「福岡市 子どもと本の日」です ～子どもの読書活動を推進しましょう～

第2回 学校図書館司書研修会

昨年11月10日（木）、福岡市教育センターよりZoomで、「第2回学校司書研修会」が行われました。

研修では、学校図書館支援センターから、学校図書館の運営に参考になる本の紹介があり、その後、各区ごとにグループになり、「おすすめの実践」や「業務について」などの情報交換が行われました。

おすすめの実践では、しおりや読書通帳の作成、ブックトーク、ビブリオバトル、本の人気投票、貸し出しランキングの紹介、配架の工夫・・・など、読書週間の取り組みがたくさん紹介されました。コロナ禍だからこそできる実践、また、タブレットを使っでの実践など、新しい取り組みも紹介されました。

学校司書として、それぞれの学校で日頃から工夫され、子どもたちの読書活動推進のために活動されている様子がよくわかりました。

昨年度から、コロナ禍の中での活動になりましたが、学校図書館の利用も増え、貸し出し数も増えているという学校も多いようです。学校図書館が持つ「読書センター」「学習センター」「情報センター」の3つの機能が、子どもたちの学習の場で発揮できるよう、それぞれの環境を整えていきたいものです。

学校図書館運営の参考になる本 福岡市学校図書館支援センター

『図書館ごよみ&イラスト1200 すぐに使える素材集』

全国学校図書館協議会／編 全国学校図書館協議会 2015.10

『著作権ハンドブック 先生、勝手にコピーしちゃダメ』

宮武 久佳／著 大塚 大／著 東京書籍 2021.9

『「学校図書館ガイドライン」活用ハンドブック 解説編』

堀川 照代／編著 悠光堂 2018.10

『「学校図書館ガイドライン」活用ハンドブック 実践編』

堀川 照代／編著 悠光堂 2019.10

『子どもと本 岩波新書 新赤版』

松岡 享子／著 岩波書店 2015.2 など



読書週間の取り組み 筑紫丘中学校



筑紫丘中学校では、11月22日から29日まで「筑中読書週間・図書館祭り」として、さまざまな取り組みがありました。先生方だけでなく委員会、部活動の生徒たちを巻き込んでの活動に感心しました。どの取り組みからも、生徒たちが生き生きと活動している様子が目に浮かびます。写真と共に紹介します。

◎図書館

<展示>

先生方のおすすめの本のPOPと本の展示

文化委員のおすすめの本の展示

<掲示>

美術部の活動の一環として作成した宣伝ポスターの掲示

文化委員のおすすめの本の紹介文(POP)の掲示

◎放送(日替わり)

先生方のおすすめの本の紹介と先生クイズ

校長先生・学年主任の先生へのインタビューとおすすめの本の紹介

各学年のベストリーダーへのインタビューとおすすめの本の紹介

NSの先生の英語の本の朗読劇

◎図書館便り

3回発行してクイズ(文化委員作成)を計30問出題し⇒300通の解答

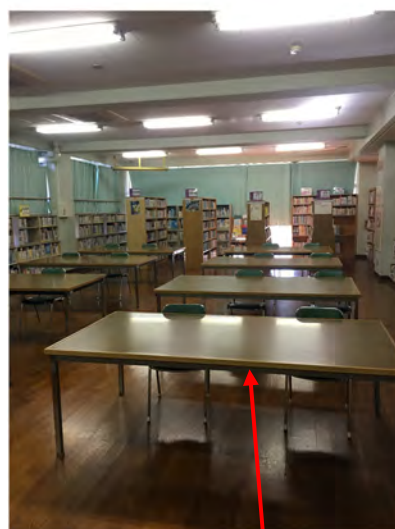
クイズの景品のしおりは、文化委員と美術部員で作成



Hello! 学校図書館 横手中学校

昨年11月末に南区の横手中学校を訪問しました。学校には前庭、中庭があり、たいへんきれいに清掃されていました。

校長先生から図書館教育担当の先生を中心とした学校の図書館教育についてお聞きし、図書館まで案内していただきました。図書館では、担当の先生と、生徒たちがさまざまな活動を生き生きとしている姿をみることができました。



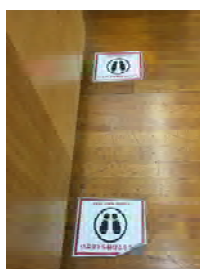
図書館に入り、思わず「きれい」と声が出るくらい、書架整理がきちんとされている、清潔感のある図書館でした。新型コロナウイルス感染防止のため椅子の数が制限されるなど安全対策もきちんと取られていました。



日本十進分類法が大きく掲示されていました。自分の読みたい本を自分で見つけることが大切です。



カバーや帯を使って新刊案内がされていました。
 また、表紙を見せた配架など、本の配架の仕方にも工夫がありました。昼休み、紹介されている本を子どもたちが自然に手に取って読書をしている姿がありました。絵本は何歳になっても心を和ませるものだなと、改めて感じました。



図書広報委員の活動がわかる掲示物がありました。たくさんの中から自分の読みたい本を見つける時の参考になることでしょう。リクエストボックス、返却ボックスも子どもたちの活動の助けになりますね。



本の帯を使った1月の掲示・展示

冬や新しい年をイメージした掲示物を作ってみました。
どれも子どもたちと作ることができます。新しい年にふさわしく、図書館を明るく彩ってみましょう。



総合図書館
団体貸し出し
の入口に置いて
います。
図書館の周りに落
ちていた藪椿の実で
す。

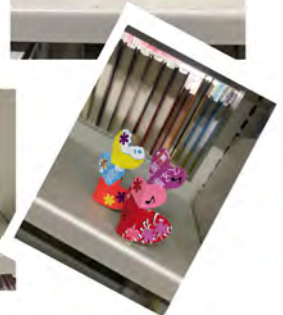
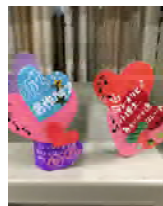
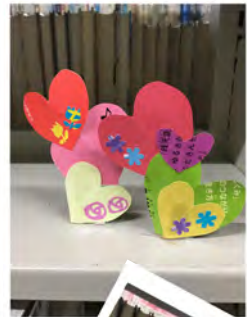


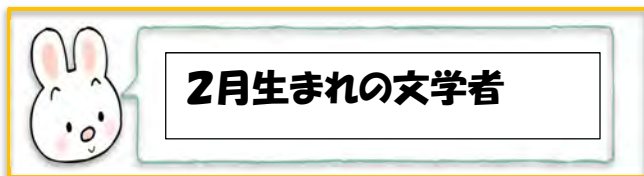
帯を下に敷いて、帯で作った花を貼って
みました。





「今年もよろしくお願ひします。」
の気持ちを込めて、しめ縄とさまざま
なハートを作ってみました。
前回紹介したように、ハートは、
トイレットペーパーやラップなどの
芯に貼ると立ち置きすることができます。





百田尚樹(ひゃくたなおき)と「永遠の0ゼロ」

1956年2月23日大阪市東淀川区 生まれ

百田氏は東淀川区の下町に生まれ、朝から晩まで外で遊ぶのが好きでしたが、父が大変本好きだったため、幼稚園のときはよく絵本を読んでいた。

29歳の頃、突然小説を書いてみようと思い、1年半ほどかけて原稿用紙2100枚の作品を手書きし、出版することを考えました。しかし、家庭の事情で出版できず、テレビの仕事を真剣にやりだし、40代までずっとテレビの仕事ばかりしていました。

「永遠の0」は、零戦に乗って命を落とした祖父の真実を現代の青年が探るという話です。50歳を目前にした時、「テレビは共同作業であり、ひとつの番組に自分がどれだけ関わっているのか数値化できない」など、色々思いながら3か月くらいで書きあげた作品だそうです。

作品は、「錨を上げよ」、「海賊とよばれた男」(本屋大賞)、「夢を売る男」、「影法師」などあります。

辻村 深月(つじむら みづき)と「冷たい校舎の時は止まる」

1980年2月29日山梨県笛吹市 生まれ

辻村氏は、小学6年で綾辻行人氏の「十角館の殺人」を読み、自分の中のミステリー観が究極の刷新をするほど大きな影響を受けました。

デビュー作の「冷たい校舎の時は止まる」(メフィスト賞受賞)は、大学の受験勉強がいやで、小説の世界で高校生活を書いてみたくなり、書き始めた作品でした。この作品は高校在学中に全体の半分ほど書き、その後、1章90枚を2週間ぐらいのペースで書き、大学4年間で書き上げました。就職後、この作品を削ったり、膨らませたりして3年目に完成しました。

20代半ばで仕事量が増え、残業も多く出張がある大変な中、毎月100枚ぐらいは執筆を続け、2008年に専業作家になりました。2012年に「鍵のない夢を見る」で直木賞を受賞しました。

辻村氏の「辻」は綾辻氏の「辻」から、「深月」は綾辻氏の作品の登場人物からの名前です。作品は、「ツナグ」「かがみの孤城」(2018年本屋大賞受賞)など多数あります。

新しい年が始まりました。今年は寅年です。トラが登場するお話「おちやのじかんにきたとら」「ちびくろ・さんぼ」「ウエン王子とトラ」など、トラの絵本はかわいいトラやかっこいいトラ、美しいトラと、さまざまです。絵本のストーリーもおかしなトラだったり、やんちゃなトラだったり、楽しめます。トラらしいかっこいい絵で描かれている絵本もあるので、トラの魅力を再確認することでしょう。

学校図書館、公民館などぜひトラのお話コーナーを作ってみてください。

(足立)



今月は冬に気持ちがあたたかくなる絵本をご紹介します。

『あかいてぶくろ』

林 木林／文 岡田 千晶／絵 小峰書店 2021年 ¥1600(税別)

<お勧め年齢>

乳幼児★★★ 小低学年★★☆ 小中学年☆☆☆ 小高学年☆☆☆ 中学生☆☆☆

高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

いつもちびちゃんと一緒にすごしているあかいてぶくろ。てぶくろの右と左もいつも一緒。でもある時、ちびちゃんは森の中で右のてぶくろをなくしてしまいます。右のてぶくろはうさぎに拾われ、左のてぶくろには新しい右のてぶくろがやってきて…

緻密でリアルですがふわっとやさしい絵で、ちびちゃんのほっぺの丸みや毛糸の柔らかさ、家の中のあたたかさなどが見事に表現されています。詩人でもある作者の文章もどことなくほんわかとしていて、冬の絵本なのにとってもぬくもりを感じます。

<子どもに手渡す時のポイント>

ストーリーがしっかりしているので、3～4歳くらいからがおすすめです。

細かく描き込まれた家の中の様子や動物たちの表情などは近くでじっくり見てほしいですが、全体的に抑えた色味の中で手袋の赤い色が目を引くので、グループでの読み聞かせにもよいと思います。離れて見ると表紙の手袋のハート形がパッと目に飛び込んで来たりと、近くで見るとちよっと違った楽しみ方もできそうです。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。



発 行：福岡市教育委員会

総合図書館 図書サービス課

電 話：092-852-0639

FAX：092-852-0801